

バリに住む人々の生活。
お客様がそれぞれに撮影したワンシーンです。

働く

バリの中心街の交通渋滞は、ホテルや観光地で働く人達の通勤時間帯に起こります。車も10年前に比べるとかなり多くなったのですが、それでもバイクは優勢です。夫婦で乗ったり、家族4人で乗ったり、たくましい光景が見られます。毎日仕事に通い働いているのは、国が違っても同じです。



(若いお母さんが小さい二人の子供を前後に乗せ、バイクを運転)

祈る

祈ることはバリの人々にとって、食事することや寝ることのように自然の行いです。1日に何度もお線香やお花をお供えます。それが勤務先のホテルやレストラン、SPAでも、働く人達によって行われるのです。すべての自然に神が宿るとされるバリ人の宗教観が伺えます。(提携先のバリトロピックホテルの従業員がお供えをしています)



(車とバイクが入り混じり、まさに渋滞にはまっています)



踊る

バリを訪れたら、ほとんどの人はバリ舞踊を鑑賞します。もともとは地元の祭礼と儀式のための踊りが、現在のように観光客も楽しめる舞踊団へと形成されていきました。宗教と密接に係わる踊りは、バリ人の生活に溶け込み、これまた自然に女性は小さい頃から踊りを習い始めます。バリの女性の姿勢の良さ、ゆったりとした身のこなしは、そういうところから来ているのでしょう。

(屋間ウブドの王宮跡地で踊りを練習中。周りには見物客が集まっていました)



News !

日本の食糧政策、インドネシアのパプア州に白羽の矢

広大な農地を持つ国を開発して将来の食糧倉庫にしようという政策が世界のトレンドになっていますが、日本政府はイ国のパプア、スラウェシ、カリマンタンに注目。最終的にパプア州 MERAUKE が広大な農地(300万ha)と豊かな水に恵まれていると見て、2.5億ドルの予算で港湾を建設、第一段階は50万haの開発を進める意向という。(3/10 インドネシアの国内新聞『コンパス』より)



バリ島からパプア州まで約2500Km。日本の食糧政策がインドネシアの地で行われる一日に限らず、他国との共存がこれからのキーなのかもしれません。